

LIBRARY NEWS

2024年度第4号【夏休み特別号】 7月16日発行

今年も暑い夏がやって来るけど図書館は涼しい!

夏休みの期間中、もちろん図書館は開館します。涼しい図書館で読書、勉強、はかどること間違いなし!積極的に利用してください!

夏休みの図書館の開館時間

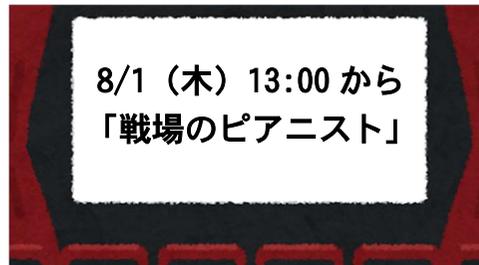
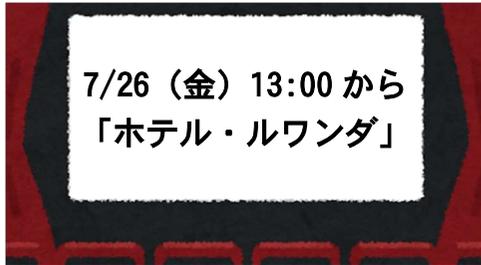
9:00-16:00

ふた付き飲み物持参 OK!

熱中症予防のため、図書館でも水分補給しましょう!

図書館 de 映画館

今年、図書館では映画を上映します。無料!快適!英語の勉強にもなる!おうちより大きいスクリーンで、映画を見ませんか?



長期休業特別貸出 やります!

☆何冊でも借りられます

(読書感想文課題図書は除きます)

☆返却期限は 9/6(金)で OK

☆7/16(火)~8/23(金)まで

の貸出が対象

いっぱい借りてって~♪

緑陰図書 R6 年度版発行!

今年も緑陰図書を発行し、各クラスと図書館に置きます。

先生方のオススメ本をとおして澁女生への**熱い思い**が伝わってきますので、ぜひ読んでみてください!

7月 夏休み図書館開館日カレンダー ☆が付いている日が開館予定日です。						
日	月	火	水	木	金	土
21	22 ☆	23 ☆	24 ☆	25 ☆	26 ☆	27
					映画会	
28	29 ☆	30 ☆	31 ☆			
8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1 ☆	2 ☆	3
				映画会		
4	5 ☆	6 ☆	7 ☆	8 ☆	9 ☆	10
11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
		閉館	閉館	閉館	閉館	
18	19 ☆	20	21	22	23 ☆	24
		閉館	閉館 (館内整理)	閉館 (館内整理)		
25	26 ☆	27 ☆	28 ☆	29 ☆	30 ☆	31
			始業式			

4月に新しく澁女に来られた先生方に、今年も聞きました!

「澁女生にお薦めしたい本を教えてください!」(第2弾)

白井 健太郎 先生(英語)

『ゴールデンスランバー』 伊坂幸太郎/著

伊坂幸太郎が好きだ。彼の作品は映像化された作品も含め全て読破している。今作は、ごく平凡な主人公が大きな陰謀に巻き込まれ、首相暗殺の濡れ衣を着せられながら、ひたすら逃げる物語。物語の構成にスピード感があり、私は3日ほどで読破してしまった。伊坂作品の特徴として精緻極まる伏線、作品をまたいだつながりが挙げられる。そのため一つの作品を何度も繰り返し違う視点で読むことができる。この『ゴールデンスランバー』もそうだ。ぜひ今作含め、伊坂作品を読んでほしい。「ちょっと小説が苦手だな」という人は伊坂作品の映画でもいいだろう。ぜひ感想を教えてください。

裏もあきます(吉野先生・登坂さん・木暮)

吉野 信幸 先生(理科)

『量子の謎をとく』 F・A・ウルフ／著 中村誠太郎／訳

電気を消して床に就いた途端、すべての壁・天井はすっと裏返し、不可視光線で満たされた。そこには見たこともない電子機器が並び、音もなく作動を始めた。彼らは超音波で会話している。勿論彼らにとって不可視光線は可視光だ。トイレに立とうと電気を点ければ何もかもが一瞬にして四次元に飛び込み、枕元には何事もなかったかのように目覚まし時計が二時を指す。異星人はこのようにして我家に忍び込み、家中を改造して地球人を観察している。こんな空想をぐるぐると続け、眠れない夜を繰り返した記憶はないだろうか。勿論そんなことがあり得ないのだと分かったのは中学の頃だったろうから、小学生の記憶である。「量子の謎を解く」(ブルーボックス)は、ふとそんなことを思い出させてくれた。観測するということはそれ自体本来あるべき姿を壊すことであり、電気を点けるという行為をしないと物を見ることのできない我々には、永遠に彼らの目論身に気づくことはできないのかも知れない。

『相対性理論の世界』 J・A・コールマン／著 中村誠太郎／訳

太古から不可侵とされてきた絶対法則にエネルギー保存則がある。二・三年生の化学でも「ヘスの法則」などの形で紹介されている。このことからある結論が導かれる。「反応の前後でエネルギーの出入りが起こり、その帳尻が合わない時、すなわちエネルギー保存則が成り立たないならば、質量が変化しなければならぬ。」なんだか妙な解釈になってしまったが。有名なアインシュタインの特殊相対性理論の中で予言されたことである。その二十数年後にこの予言は実証された。時は既に二十世紀に入っていた。皮肉にもそれは唯一日本にのみ投下され、不幸な結論を導いた。しかし、今は幸いにも平和利用に研究の方向が変わってきた。かつて「相対性理論の世界」(ブルーボックス)を読んでいた頃、悲惨なニュースが日本を駆けめぐった。福島県東海村で原発事故が…。「臨界」この事件こそ、先の事実そのものであり、一ミリグラムにも満たぬほんの僅かな質量の減少が招いた惨事である。驚いた拍子に落としたコップを壊した力は、彼方で起きたあの質量欠損に果たして関係あるのか否かは知る由もない。

登坂 結子 さん(事務室)

『存在のすべてを』 塩田武士／著
2児同時誘拐事件から始まる刑事と新聞記者、そして誘拐された少年の話です。事件の真相を追っていく中で、様々な愛のかたちが見えてきます。親子愛、夫婦愛、友愛、尊敬。それぞれの愛情の深さに胸を打たれ、涙腺崩壊します。たくさんの糸が絡み合い、解かれていく・・・読んでよかった!と思えた1冊です。



木暮 知恵(図書館)

『読書が苦手だった司書が教える世界一かんたんな図書館の使い方』 つのだ由美こ／著
1人でも多くの生徒さんに図書館に来て本を借りてほしくて仕方ない私がおすすめする本は、これです。これを読むと読書や図書館へのハードルがかなり下がってなんだか気が楽になっちゃうのですから。著者は、読書自体を目的とするのではなく、読書は夢を叶える手段であると言い、その読書を上手にできるようにするには、普段から読書をして「読書筋」を鍛えることが大事であると強調します。首が筋肉痛になるくらい何度も強くうなずきたいです。図書館をどう使うか、図書館と生成AIとの付き合い方など、現代の情報社会に即して書かれていて、その上とても読みやすい文体です。私の目から落ちた鱗の量が多すぎて、魚屋さんになれるかと思いました。